

新庁舎整備事業市民説明会 2021  
意見交換結果概要（11月25日全地区開催分）

○日 時 令和3年11月25日（木）午後7時～8時30分

○会 場 生涯学習センター201

○出席者 13人（参加市民）

○内 容

□【質問・意見・提案等】

⇒【回答】

□新庁舎整備は市全体のまちづくり、顔づくりのトリガーにすぎないと考えている。市内外の経済的波及効果が最も大きいコンパクトエリア、交通の結節点である美濃太田駅周辺、その交流スペースに民間セクターのみならず、行政セクターも共存すべきなのは必須のことである。浸水対応型新庁舎として、9.28災害のような降雨も乗り越えられると思う。

駅前市の街地再開発準備組合と今後どのように連携していくのか。

このエリアのにぎわいをけん引する若者たちとの関わりについて、具体的には名城大学連携事業について、良い意見はあったか。

⇒市街地再開発事業は県の認可が必要であり、市は、指導・管理をしていく立場である。その中で、市が目指しているまちづくりにおいて連携できる事業を支援していきたい。

市民からの意見を聞く場はこの説明会で終わりではなく、例えば高校生や子育て中のお母さん方、障がいをお持ちの方等の意見を聞いていきたい。名城大学連携事業では色々な課題や提案をいただいたが、一番印象深かったのは“食を活かしたまちづくり”であり、計画の中で打ち出していきたい。

□飛騨川の氾濫、コロナ禍での県下トップクラスの罹患率等この8年間、「堂々」とできない状況であった。美濃加茂市のにぎわい再構築を職員一丸となって精進してほしい。

□駅前が候補地としてふさわしいことがよく理解できた。担当者不在で対応できないということがないように、来庁者に対していつでも対応できるように職員育成をお願いしたい。

（仮）地域協働センターの職員増員、決裁権を与えるという話があったが今の各連絡所内に十分なスペースがとれるのか。ICTの活用をぜひ実現してほしい。

駅前には現状人が少ないし、店も閉まっている所が多い。本当ににぎわうのか不安である。また、コロナなどいつ何が起こってもおかしくない時代のにぎわい

は実現できるのか。

⇒今後の職員が目指すべき姿として市民に寄り添う、市民と共に課題解決をできる職員を育成したい。

(仮) 地域協働センターへの職員配置は、ICTの活用もはかり、まとめるべきものはまとめて配置したい。場所は、各地区の民間施設や空き家の活用も検討していきたい。

にぎわいについては、若者が何を求めているのかを把握し、検討した上でまちづくりを進めていかなければならない。市内8地区は里山のあるまち、川のあるまち等それぞれ地域性がある。その中で次世代を担う方が名古屋や東京ではなく美濃加茂市に友達を連れて来て楽しめる場をつくりたい。社会の健康の実現のためにも高校生から高齢者まで色々な世代の方が集まる機会をつくりたい。

□駅前が寂しいところだと思われるのはつらい。明るい素敵なまちになることを願っている。

□説明会資料にあるイメージ図のような、ぜひ人が集まるような場所にしてほしい。市街地再開発後に協力してもらえる民間業者などを今から検討しておくべきではないか。

⇒将来どのようなまちにするのか具体的、実践的な計画を都市計画事業として認可していきたい。内閣府の可能性調査で各省庁による判断を仰いでおり、駅前の発展可能性は大いにあるという返答をいただいている。民間業者からの問合せへの対応等は再開発事業に対する重要な担保と考えているので、しっかりと説明していきたい。

□整備計画は楽しみな反面、過去に開発した駅前が現状は閑散としているのを見ると、財政的に心配な面もある。

サテライトにすればするほど職員が分散され職員の負担が増加し、本当に市民のためになるような仕事はできないのではないか。1カ所に集中していたら、職員同士で協力できる。

中山道界隈では若者による出店が見られる。駅前の出店は見込めるのか。

⇒身の丈にあったまちづくりをしていく。将来負担にならないようにライフサイクルコストを考えながら、将来負担比率ゼロ以下を堅持しながら事業を進めていきたい。

自治体DXを進めていく。職員にとって一番大事なのは市民に寄り添い地域課題と一緒に解決していく力であり、そのために訓練、研修をしっかりと行っていく。(仮) 地域協働センターへは経験ある職員の配属を考えている。保健師等

専門職も含め市民に寄り添える職員を配置したい。

出店について「食べる」というコンセプトで、地域のものを味わえる食のまちを目指していきたい。中山道につながる道とも連携し、にぎわいをつくっていく。リノベーションにかかる投資支援など、若い人たちがこの場所でお店を持てる支援を行っていきたい。